

令和八年度 一般入学試験問題（前期）

兵庫県立農業大学校

『国語』

受験番号

--

名前

--

一 次の傍線部の漢字の読みを、ひらがなで書きなさい。(各1点、合計10点)

- ① 花の芳香が部屋に漂う ()
- ② 自分の住んでいる町の沿革について調べる ()
- ③ 地域の催しに参加する ()
- ④ 提言に従う ()
- ⑤ 俊敏な身のこなしに感心する ()
- ⑥ 雪が降って道幅が狭まる ()
- ⑦ 全国に影響が波及する ()
- ⑧ 観客の応援が熱気を帯びる ()
- ⑨ 猫が爪を研ぐ ()
- ⑩ チームを優勝へと導く ()

二 次の傍線部のカタカナを、正しい漢字で書きなさい。(各2点、合計20点)

- ① ジュンジヨ立って考える ()
- ② 海面に釣り糸をタらす ()
- ③ 重要なヤクワリを果たす ()
- ④ タワラに米を入れる ()
- ⑤ 彼の印象がノウリに焼き付いている ()
- ⑥ メンミツな調査をする ()
- ⑦ 遠くの山ナみをながめる ()
- ⑧ 毎日続く夏の暑さにヘイコウする ()
- ⑨ 腕のキンクを鍛える ()
- ⑩ この旅でキチヨウな経験をした ()

三 次の言葉の類義語をそれぞれあとから選び、記号で答えなさい

(各4点、合計20点)

- ① 賢明 ()
- ② 決着 ()
- ③ 自慢 ()
- ④ 好調 ()
- ⑤ 不和 ()

- | | | | | | | | |
|---|----------|---|--------|---|------|---|----------|
| ア | 石橋を叩いて渡る | イ | あごで使う | ウ | 犬猿の仲 | エ | 波に乗る |
| オ | 逆鱗に触れる | カ | 水魚の交わり | キ | 歯が浮く | ク | 目から鼻に抜ける |
| ケ | 話が付く | コ | 鼻に掛ける | | | | |

四 次の傍線部を適切な敬語表現に改めなさい。

(各4点、合計20点)

- ① 師匠のお宅を見る。 ()
- ② 妹さんからもらいました。 ()
- ③ いま何と言いましたか。 ()
- ④ 私は自宅にいる。 ()
- ⑤ 先生が昼食を食べる。 ()

五 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

乗り物のうちで、歩くことにもっとも近いのは、著者の経験ではカナディアン・カヌーに思われる。もちろん、^{注1}ホワイトウォーターに挑むスポーツとしてのカヤッキングではない。河と湖をカナディアン・カヌーで進み、森のなかではそれを担いで踏破する移動だ。

①カヌーは深い思索に誘われる。哲学するためにこの乗り物を作ったのではないかと思えるほどだ。しかしそれは歩いているときや^{注2}トレッキングしているときは、思考の働き方がかなり異なる。カヌーを漕いでいるときの方が、より深く、より多角的に、その場所に包まれる。自分は環境の一部分となり、その一部分全体が移動する。自分は水となり、その水が海に向かう。歩いているときには、自分の身体は環境に包まれつつも、それから身を引き剥がし、足を宙に浮かしている。カヌーでの思考は、歩行のときよりも^{注3}形而上学的になる。

ヨットと乗馬は、圧倒的に素晴らしい経験であるが、歩くこととは似ていない。乗馬には、馬という相棒がいる。相棒と自然について対話しながら進んでいく。だが、この相棒と私とは志向性がかなり異なり、ときに初心者には難解な言葉を容赦なく浴びせてくる。馬の歩行のリズムは、人間の歩行のリズムと異なるが、非常に快適であり、快楽をもたらす。^{注4}ケンタウロスは、ひとつの人間の身体的理想なのかもしれない。

ヨットは、散歩よりもはるかに危険な行為であり、個体の生命をつねに自覚させられる。^{注5}セイリングでは、カヌーと同じく、自然に完全に包まれ、風と波、海の一部と化す。しかしカヌーが身体との一体感が強いのに比較すると、ボートは依然として乗り物であり、クルーもいる。風と波に従いながら、それらを最善に利用するには、知恵とチームワークが必要である。セイリングでは、多忙な労働と瞑想が交互にやってくる。それは、風と波のリズムの反映である。

こうして、カヌーやヨット、乗馬では、^②自然のもつ意味が、それぞれに散歩やトレッキングとは大きく異なっている。

歩くことは、独特の経験である。しかし足もある意味で乗り物である。乗り物はさまざまに用途に使える。ここで私が論じているのは、散歩としての、トレッキングとしての歩きである。それは歩くこと自体に注意を向け、歩くことで展開する風景に侵入される経験である。リズムカルに、しかし道の細かい変化を足の裏で拾い上げながら、ほんの少しスピードを変えて、周りの空気を静かに吸って吐き、自分が押しのける風のなかで自分の体

を感じるのである。歩くことそのものが、生きることであったのではないか。

しかし、^③散歩やトレッキングは、ただ足を前後することではない。自宅の小さな庭をぐるぐる回るのは楽しめない。外に出て、いつもの道と寄り道を取り混ぜながら、あるいは旅行先の見知らぬ場所を歩くことは、大げさに言えば、自分を異なった存在にすることである。散歩もトレッキングも、自分の歩みと連動する風景、息と大気の循環、束縛がなく自由に動かせる空間と身体、あらゆるものをしっかりと観察できるゆったりとしたスピード、少しずつであるが蓄積される疲労と休憩の場所、こうした身体と環境との即応を感じ取るものである。もっとも重要なことは何か特定の目的がないことである。しかし、私たちは歩くことで何かとの出会いを求めている。しかしそれが何かは分かっていない。いつ出会うのかも分からない。そのような特別のものに出会える場所を見つけようとしているのだ。いや、見つけるといふのは適切な言葉ではない。そうした人間の能動的な選択によって現れるのではなく、その何か、その場所で待っていてくれるという表現を使った方がいい。

哲学と散歩の結びつきはかなり本質的である。多くの哲学者たちが散歩を好み、散歩しながら思索し、友人と議論をした。アリストテレスは歩きながら議論し、その弟子たちは注⁶逍遥学派と呼ばれたことは知られている。東洋思想でも、散歩と思索はひとつのものであった。近代になっても、散歩者を数えればキリがない。

なぜ哲学と散歩はここまで強い結びつきがあるのだろうか。人類学的な説明をすれば、二足歩行により、手が自由になり、口に鋭い歯と重い顎あごが必要なくなった。話して考える準備は、足がもたらしてくれたのだ。しかしより本質的に言えば、歩くことと考えることが同じ行為だからではないだろうか。

散歩は目的地をもってしているわけではない。かりに目的地がある散歩であっても、そこに到達する過程の方に意味がある。散歩は、何であるか分からないものとの出会いを求めて歩く。自分が求めているものが何かわからず、何に出会うかも分からないが、出会ったときにはそれを必然と感じるような何かを探して歩いている。そのさがしものは、記号化さ

れ、誰からも分かるような道端に置かれていのではない。かす微かな微しろしだけを頼りに、草深い注⁷トレイルを歩いて見出すのだ。さがしものを手に入れることに目的があるのではない。

^④さがしものが自分を変化させることが大切である。それは自分にしか見つけられない場所を訪れることである。

散歩において見つけた、しばし留まるべき場所。これまでの自分とは異なった視野を与えてくれる、丘の頂上。緑の生き物の内臓のような森。不健康なほどコバルト色の空が宇宙に届いている高原。風の足跡を残してうねる砂丘。永遠にクロールしたくなるようなサング礁の海辺。これらの場所に到達して私は変化する。そこに永らく座っていたくなるだろう。しかし自分が散歩の途中であったことを思い出し、私たちは再び歩き出す。どこでもない目的地を探して。

こうした散歩の歩き方は、考えることに非常に似ていることにお気づきだろう。思考には、問題解決のためのありとあらゆる行動が含まれている。それは、問いに始まり、どこにたどり着くかおぼつかない旅である。知的な探求は、踏みならされた道路を進むことで

はありえない。

歩くこと、話すこと、考えることには、共通の構造がある。それは、^注ドロワによれば、「崩壊し始め」、「持ち直し」、「また始める」という構造である。たしかに、ある方向に移動するという推進と、それを実現するための足と地面との調整の連続で歩行はできている。細かな失敗と修正を繰り返して、私たちは歩むのだし、考えることも話すことも同じような過程で進んでいく。この点には全く同意できる。ドロワは、さまざまな哲学者の歩行¹¹思考の仕方を分析し、それぞれの哲学者の思想の違いは、その歩き方の違いに対応しているという興味深い説を展開している。

〔河野哲也著『人は語り続けるとき、考えていない 対話と思考の哲学』による。一部改〕

注1 ホワイトウォーター…川の激流

注2 トレッキング…山歩き。

注3 形而上学…物事の根本原理を研究する学問。

注4 ケンタウロス…ギリシャ神話で上半身は人体、下半身は馬の形の怪物。

注5 セイリング…水上を帆走すること

注6 逍遙…あちこちをぶらぶら歩くこと。

注7 トレイル…踏み分けた跡。

注8 ドロワ…ロジェリポル・ドロワ。フランスの哲学者。

問一

傍線部①「カヌーは深い思索に誘われる。」とありますが、カヌーでの思考の働き方について説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を書きなさい。(5点)

ア カヌーでは、歩くことよりも、より深く、より多角的に、環境の一部分となって移動しているように感じられる。

イ カヌーでは、自分の足で歩く時と同じぐらい深く、多角的に、その場所に包まれているように感じられる。

ウ カヌーでは、水から身を引き剥がし、足を宙に浮かせることで、その場所に包まれているように感じられる。

エ カヌーでは、その姿勢や足の運びが歩くことと似ており、環境の一部分となって移動しているように感じられる。

問二

傍線部②「自然のもつ意味が、それぞれに散歩やトレッキングとは大きく異なっている。」とありますが、筆者の考える乗馬やセイリングにおける自然とのかかわりについて説明した文として適切なものを、次のア～オの中から二つ選び、その記号を書きなさい。(各5点、合計10点)

ア 乗馬では、馬を相棒にして自然との対話を楽しむが、初心者には時に難解な言葉を容赦なく馬に浴びせてしまうことがある。

令和8年度一般入学試験（前期）試験問題

「数学 I + A」

受験番号	
名 前	

兵庫県立農業大学校

1. 次の式を計算しなさい

(各3点)

(1) $-12 \div 4$

(2) $8 \times (-6)^2 \div (-4)^3$

(3) $(-3)^2 - 4 \times \left(-\frac{5}{2}\right)$

(4) $\left(\frac{2}{5} - \frac{3}{10}\right) \div \frac{1}{4}$

2. 次の式を因数分解せよ

(各3点)

(1) $6x^2 + 11x + 3$

(2) $x^2 + 2xy + y^2 - 9$

(3) $ab - 2a - 3b + 6$

(4) $a^2 - 9b^2 - 6a + 18b$

3. 次の方程式を解け

(各5点)

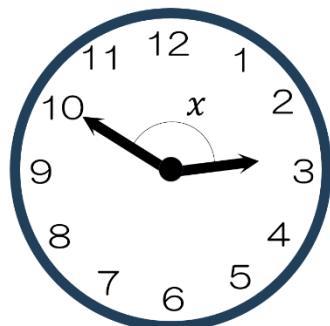
(1)
$$\begin{cases} 0.5x + \frac{1}{2}y = 3 \\ \frac{3}{4}x - 0.25y = 1 \end{cases}$$

(2)
$$\begin{cases} 2x + 5y = 3 \\ 3y = x + 4 \end{cases}$$

4. 農業大学校の4時間目は午後2時50分から始まる。

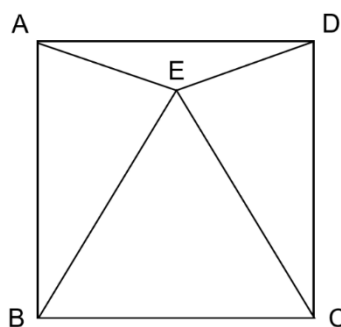
そのときの時計の長針と短針が作る角 x の大きさを求めなさい。

(10点)



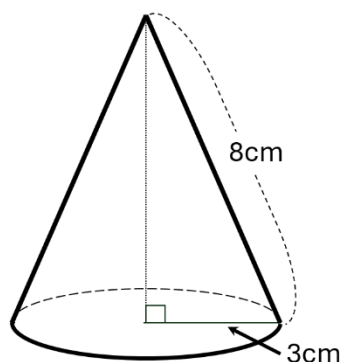
5. 正方形 $ABCD$ の内部に $\triangle EBC$ が正三角形になるように点 E を取る。
 このとき $\angle EAD$ の大きさを求めよ。

(8 点)



6. 図のような円錐がある。次の問いに答えよ。ただし円周率は π とする。 (各 4 点)

- (1) この円錐を展開したときにできる側面の扇形の中心角を求めよ。
- (2) この円錐の表面積を求めよ。



7. 次の問いに答えよ。また、式も解答用紙に書きなさい。

(各 10 点)

- (1) 30m のロープを 3 本に切り分け、短い順に A、B、C とする。一番長いロープ C は、一番短いロープ A の 2 倍の長さである。また、ロープ B はロープ A より 4 m 長い。このとき、ロープ A の長さを求めなさい。
- (2) A さんが家から駅まで自転車で往復した。行きは毎時 18km で、帰りは毎時 15km で走ったところ、往復で 1 時間 28 分かかった。家から駅までの距離を求めよ。
- (3) ポットの中にジュースが入っている。そのうち 250 ml を自分で飲んだ。さらにポットに残っているジュースの 30% を妹に分け与えたところ、ポットの中には 350 ml のジュースが残っていた。最初にポットに入っていたジュースの量を求めよ。
- (4) 15% の食塩水 100g に、濃度のわからない食塩水を 200g 加えて混ぜたところ、11% の食塩水が 300g できた。このとき加えた食塩水の濃度を求めよ。

令和8年度 一般入学試験（前期）試験 「数学 I + A」 計算用紙

受験番号	
名 前	

--